

ふいんてっく通信

～ Vol.18 ～

進め！キャッシュレス決済

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

nikko am
fund academy

諸外国に比べてキャッシュレス比率が高まらない日本ですが、コロナ禍で外出を控え、接触を避けるようになる中、キャッシュレス決済の利用頻度が着実に増えているようです。

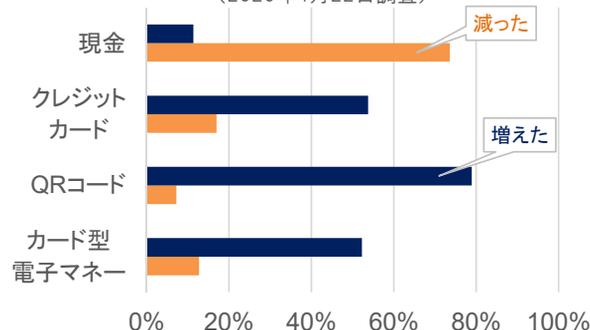
■ コロナ禍でキャッシュレス決済が増えた

今なお現金で商品を購入する人は多いのですが、コロナ禍で支払い方法に変化があったようです。調査機関（MMD研究所調べ）によると、2割の人の支払い方法に変化があり、現金決済が減少し、キャッシュレス決済を増やした人が多いことが分かりました。

その理由は、お金に触れたくない、ネットショッピングが増えた、お店の人と接触する機会を減らしたい、といったことのようにです。

【コロナ禍の影響による主な支払い方法別の利用変化】

(2020年4月22日調査)



MMD研究所×スマートアンサーの情報をもとに日興アセットマネジメント作成 ※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

今回のコロナ禍で、現金を使っていた場面でキャッシュレスを利用する機会が多くなり、消費者の中には利便性を感じた方が増えたと思います。

キャッシュレス決済が進めば、店舗側にとっても多くのメリットが生じます。

例えば、キャッシュレスで支払われることにより、どういう人が、何を買ったのか、といった情報を得ることができ、今後こういった商品を仕入れれば良いかなど、効率的な商品管理が可能になります。

また、経理業務の負担軽減や従業員の業務負担の軽減などの効果も見込まれます。

■ 新しい生活様式はキャッシュレスで

厚生労働省は5月、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を公表し、実践例が示されています。

3密（密集・密接・密閉）の回避や手洗い、換気はもちろんのこと、キャッシュレス決済の利用を推奨しています。

消費者と店舗側にとって、キャッシュレス決済が感染対策として有効な手段になっていくでしょう。

今春に開業した、山手線新駅「高輪ゲートウェイ駅」に無人コンビニエンスストアの常設店が導入されるなど、今後、キャッシュレス店舗が増えていくと予想され、国内の決済アプリに係る市場規模の拡大が見込まれます。

【国内の決済アプリ**に係る市場規模の推移】

(兆円)

**QRコードやバーコード読み取り



公正取引委員会の調査報告書などの情報をもとに日興アセットマネジメント作成※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。